

## 令和元年度 修了式 挨拶

令和2年3月19日（木）

3月も下旬となりました。すでに全国から桜の便りが届いています。ここ陳場岱の丘にももうすぐ本格的な春がやってきます。私は冬から春に向かう今の季節が一番好きです。何か良いことが訪れそうな、何でも頑張れそうな希望の春です。

慌ただしい2月28日の休校宣言から、もうすぐ一ヶ月が経とうとしています。生徒の皆さんはこの時期をどのように過ごしているのでしょうか。残念ながら今日現在でも病原体流行の見通しが立たず、明確なこれからの学校生活の事を伝えられないもどかしさがあります。しかし、本高生としての自覚と誇りを持ち、自らを律した生活を送っていると信じています。

修了式でお話ししたかった事をここに記し、令和元年度を締めくくりたいと思います。

今年度は春にインフルエンザの流行もありましたが、一年間学校には大きな事故もなく、そのことが何よりも良かったことです。また生徒会を中心に、生徒や先生方全員の力で運動会、玲瓏祭、クラス対抗の本高三大行事が大変盛り上がり上げてくれたことを本当に嬉しく思います。

本高生の目指すべき姿である「右文尚武」について振り返ります。

まず、武の方では運動部も文化部も健闘し、すばらしい結果を残してくれました。特に端艇部や柔道部の全国レベルでの活躍、カヌー競技のインターハイ優勝が強く印象に残っています。文化部では放送部や科学部が全国大会に出場しました。これらのことは、学校のみならず地域の盛り上がりにもつながりました。

文については、卒業した3年生の進学状況が判明し、多くの朗報が届いています。今年度も全ての3年生が夢の実現に向け、最後まで粘り強く頑張ってくれました。詳細な結果については、来年度早々お知らせできると思います。

1年生はこれからいよいよ勝負の2年生となります。各コースに別れ、それぞれが進路にあわせて本格的な勉強が始まります。1年生の内容がおろそかであれば、土台がしっかりしない建物が危ういように、進路目標達成も非常に難しいといえます。今のこの空白となる時期を大切に、しっかり基礎を固めなければなりません。

部活動では、友人と切磋琢磨して自らを向上させるとともに、入学してくる後輩の良き手本となれるよう、中堅学年としての自覚と責任ある行動を期待します。

2年生はいよいよ本格的に自分の進路に向かうべき3年生となります。来年度から実施予定の大学入学共通テストは、紆余曲折を経てやっと方向性が定まりました。どのような試験であれ、目標を明確にし、真の実力を身に付けるよう努力できれば恐れる必要はありません。日々の小さな積み重ねを大切にしてください。

部活動ができるのも、高校生活では残り数ヶ月となりました。練習から本番まで気持ちを込め、完全燃焼を目指してください。学校行事ではリーダーシップを発揮し、成功に導いてください。

一人ひとりが覚悟を決め、高校生活集大成の時となるよう願っています。

伝統校の強さは、憧れとなる先達や高い目標に向かって頑張る友人が常に身近にいて、進むべき道を示してくれることにあると考えます。それを心の拠り所として、皆さん自身が新しい本高の伝統を作り上げてください。

最後に、今のこの事態はピンチではありますが、発想を転換すればチャンスのある時期でもあります。これほど自分の自由になる時間がこれからの人生であるでしょうか。自分の意思でしっかりと自分の行動をコントロールし、自分の夢の実現に向け、努力する時間としてください。

事故なく健康であることを願い、学校で再会する日を楽しみにしています。

秋田県立本荘高等学校 校長 檜尾尚樹